

18 都市農業の推進			
18 都市農業の推進			
主管課名	生活文化スポーツ部 農政課		
主管課長名	元木 勇治	電話番号	042-481-7586
関係課名 (組織順)	環境政策課, 緑と公園課, 都市計画課, 学務課, 指導室		
目的	対象	農業者, 農地, 市民	
	意図	安全でおいしい農産物を生産し, 市民がそれを消費することができる農地を保全する 市民が農業とふれあい, 都市農業への理解を深めることができる	
施策の方向	市内農業者が農業を継続できるように支援し, 新鮮な農産物の供給や農地の保全・活用を図るとともに, 地産地消や農業体験など, 多様な役割を有する都市農業を推進します。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の振り返り — 取組実績（DO）

◆ 令和4年度における取組実績の振り返り

施策の成果向上に向けた主な取組実績 【前期基本計画（令和5年度～令和8年度）の基本的取組毎に記載】 施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）	
（18-1 いきいきとした農業経営） ・市内農業者の農業経営力の向上を図るため, 市が認定した認定農業者又は農業経営に意欲のある農業者に対し, ビニールハウスなどの農業用資機材の整備, 購入費用の一部を助成する, 市独自の都市農業育成対策事業補助制度を活用した支援を, 28件実施した。 ・海外情勢の影響による農業用肥料や原油等の価格高騰に対し, 市内農業者が販売する市内農産物の生産コストへの負担軽減を図るため, 農業用肥料の支給や原油等購入費用の一部助成を行った。	
①横断的連携による施策の推進 ・農業者が安心して農業を継続できるよう, 国, 東京都, 農協, 農業委員会などと連携し事業を推進した。 ■連携テーマ2 「にぎわいとうるおいのあるまちづくり」 ・にぎわいとうるおいのあるまちづくりとして, 環境に配慮した栽培を推進する農業者に対し, JAマイنزと連携し有機質肥料の配付を行い, 市民ニーズの高い新鮮で環境に配慮した安全, 安心な農産物の生産・供給を推進した。 ・意欲ある農業者を支援するため, 国・東京都等の各種助成制度の周知, 活用を促進し, 農業経営を支援した。 ・地産地消の推進や市民が集い憩える場の提供を目的とし, JAマイنزやトリエ京王調布と連携し, 地場産の採れたて野菜や花の直売, フード・カフェを楽しむことができるマルシェ ドゥ 調布を令和4年6月18日・19日の2日間, 調布駅前広場で開催した。	
②調布のまちの魅力発信 ・都市農業の振興により, 安全, 安心で新鮮な農産物の供給につながった。	
（18-2 農のある地域づくり） ・新鮮で安全, 安心な調布産の農産物を販売しているJAマイنز直売会や市内農家の直売所を支援し, 地産地消を促進した。 ・多様な農業体験の場の創出として, 農業体験ファーム6園240区画の管理運営を支援したほか, 市民農園として令和4年度に新規開設した3園を含む市内の計14園718区画（令和5年3月31日現在）を市民に提供するなど市民が農業にふれあえる場の確保に努めた。 ・学校における食育の推進として, 市内産農産物を活用した給食の提供や, 学校農園, 社会科見学などの授業で, 農家の方から市内農産物について学ぶ取組を継続して実施した。 ・調布市農産物直売所マップを活用し, 調布市産農産物のPRに努めた。 ・市民と農業者との交流, 農業者の生産意欲や農業技術の向上, 農産物の品質の改良などを行うために, 第44回調布市農業まつりを令和4年11月19・20日の2日間, 市役所前庭で開催した。会場には大変多くの市民が来場し, 農産物の展示品評会, 農産物の即売, 農業相談などを行った。	
①横断的連携による施策の推進 ・食育の推進については, 教育委員会や学校など, 関係部署と連携強化を図った。 ■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」 ・新型コロナウイルスの感染予防対策を講じながら, 学童農園, ふれあい体験農園の事業により, 農業者と市民との協働, 農業体験の参加者同士の交流など, 農業を通じたコミュニティ形成や食育の推進を図った。また, 学童農園については, 第三小学校にて新規開設した。 ■連携テーマ2 「にぎわいとうるおいのあるまちづくり」 ・新鮮で安全, 安心な調布産の農産物を販売しているJAマイنز直売会などを支援し, 地産地消を促進した。	

- ・市民農園の新規開設及び学童農園の新規開設に取り組んだ。

②調布のまちの魅力発信

- ・農のある地域づくりを推進することで、食育や環境教育の場となるだけでなく、生活環境にうるおいとやすらぎを与え、良好な住環境の形成が図られた。

(18-3 農地の保全・活用)

・都市農地は、安全、安心で新鮮な農産物を供給する場であるだけでなく、災害時における避難場所となること、生活にうるおいとやすらぎを与え良好な住環境を形成すること、食育や環境教育の場となること等多面的な機能を有していることから、都市農地の保全に努めるため、生産緑地地区の追加指定を推進した。

また、市が維持管理する水路について、水利組合においても市内に残る水田に必要な農業用水を確保するため、維持保全作業を行った6つの水利組合に対し、農業用水路しゅんせつ事業及び軽微な補修作業などの保全作業に係る費用を助成した。

- ・農園主が主体となって実施する農業体験ファームの運営に対する支援を行い、良好な農地の保全・活用を図った。
- ・東京都の補助事業である、都市農地保全支援プロジェクトを活用し、災害時協力井戸とする農業用井戸の設置や防葉ネットの設置に対して補助を行い、農地の持つ多面的機能の発揮を通じて、貴重な都市農地の保全を図った。
- ・JAマイズと連携し、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」の活用を促進することで、高齢化に伴う担い手不足等、耕作が難しくなった生産緑地について、市内農家への貸借につなげ、都市農地の保全・活用を図った。

①横断的連携による施策の推進

- ・関係部署と連携して令和2年度からスタートした調布市農業振興計画の推進に努めた。

■連携テーマ2 「にぎわいとるおいのあるまちづくり」

- ・市報、ホームページの活用や調布市農業まつりなど各種イベントの機会を捉えて農地の多面的機能のPRに努めた。

②調布のまちの魅力発信

- ・都市農業・農地の保全により、都市農地が有する防災機能や景観形成等の保全にもつなげることができた。

◆ (参考) 令和元年度～令和3年度における施策の成果向上に向けた主な取組実績

- ・平成27年度に制定された都市農業振興基本法や、都市農業振興基本計画の策定を受け、市における都市農業の持続的な振興を図るため、「農業者」「農業関係機関・団体」「有識者」「市民」等から構成した策定会議の開催や、市民、農業者へのアンケート調査を行うなど、多様な主体と連携しながら、調布市農業振興計画を策定しました。
- ・農業経営の改善を図るため、認定農業者及び農業経営に意欲ある農業者に対し、都市農業育成対策事業を活用し、農業用資機材の費用の一部を助成することで、農業経営を支援した。
- ・東京都の補助事業である都市農地保全支援プロジェクトを活用し、災害時協力井戸とする農業用井戸の設置や防葉ネットの設置、土留めの設置等を補助し、農地の持つ多面的機能の発揮を通じて、都市農地の保全を図った。
- ・市民が農業や農家と交流する場である農業体験ファーム6園の管理運営に対する支援により、生産緑地の保全・活用を図った。また、新型コロナウイルスの感染予防対策を講じながら、市民農園、ふれあい体験農園、農業体験ファームなど多様な農業体験事業を実施した。
- ・多様な農業体験の場づくりとして、農業体験ファーム及び学童農園を新規開設した。
- ・農産物を販売しているマイズ農業協同組合直売会や、市内農家の直売所への支援を通じて地産地消の促進に取り組んだ。
- ・コロナ禍で利用が増加している直売所について、従来の紙媒体の農産物直売所マップの発行に加え、マップに付記したQRコードをスマートフォンで読み込むことで、直売所までのルートを案内する機能を備えることにより、市内直売所の利用促進に向けた情報発信を図った。
- ・調布市農業まつりの開催を通じ、市民を農業者の交流、農業者の生産意欲及び技術力の向上を図った。
- ・都市農地の保全を図るため、特定生産緑地への移行促進に取り組むとともに、新たな生産緑地地区の指定に取り組んだ。
- ・JAマイズと連携し、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」の活用を促進することで、高齢化に伴う担い手不足等、耕作が難しくなった生産緑地について、市内農家への貸借につなげ、都市農地の保全・活用を図った。

施策における2つのアクション (①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信) の視点に基づく主な取組実績

- ・農業者が安心して農業を継続できるよう、国、東京都、農協、農業委員会などと連携し事業を推進した。
- ・にぎわいとるおいのあるまちづくりとして、環境に配慮した栽培を推進する農業者に対し有機質肥料の配付を行い、市民ニーズの高い新鮮で環境に配慮した安全、安心な農産物の生産・供給を推進した。
- ・意欲ある農業者を支援するため、国・東京都等の各種補助金の周知、活用を促進し、農業経営を支援した。
- ・学童農園やふれあい体験農園の事業により、農業者と市民との協働、農業体験の参加者同士の交流など、農業を通じたコミュニティ形成や食育を推進した。
- ・関係部署と連携して令和2年度からスタートした調布市農業振興計画の推進に努めた。

◆まちづくり指標の現状把握

まちづくり指標	単位	実績値				目標値	指標の推移*
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和4年度	令和4年度
1 認定農業者の人数	人	58	60	59	67	70	○
2 多様な農業体験の場の新規開設数 (目標値は、令和元～4年度の4箇年累計)	園	0	1	1	4	2	◎
3 生産緑地地区の年間追加指定件数 (目標値は、令和元～4年度の4箇年累計)	件	8	7	16	0	20	◎
4 市内農家の農産物直売所を利用している市民の割合	%	55.8	52.7	52.4	56.1	60.0	○

※令和4年度における指標の推移は、以下の区分により記号を記入

◎：目標値を達成 ○：目標値を未達成（前年度より向上した） ▼：目標値を未達成（前年度より低下した） ⇒：目標値を未達成（前年度と同じ）
－：数値未把握（調査未実施など）

◆指標でみる後期基本計画期間内（令和元年度～令和4年度）の達成状況

各指標の達成状況及び説明	
No. 指標名	
説明（目標達成・未達成の要因、課題、今後の取組の方向等）	
1 認定農業者の人数	<ul style="list-style-type: none"> 計画期間内において、認定農業者数は増となり、目標を概ね達成した。 今後、家族経営協定を促進することで、認定農業者数の増加を図る。
2 多様な農業体験の場の新規開設数	<ul style="list-style-type: none"> 計画期間内において、目標値を達成することができた。 市民農園のみならず、学童農園や農業体験ファームなど、様々な体験農園を開設した結果と認識。 市民農園については、市内にバランスよく配置ができるよう検討。
3 生産緑地地区の年間追加指定件数	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の追加指定はなかったものの、計画期間内において、目標値を達成することができた。 J Aマイズと連携した生産緑地地区制度の周知が図れた結果と認識。 今後もJ Aマイズと連携し、生産緑地地区及び特定生産緑地地区制度の活用を促進。
4 市内農家の農産物直売所を利用している市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> 計画期間内において、市内農家の農産物直売所を利用している市民の割合は増となり、目標を概ね達成した。 今後、令和2年度にリニューアルした調布市農産物直売所マップの更なるに活用等、市内農産物のPRを強化。

《参考》前期基本計画（令和5年度～令和8年度）における「まちづくり指標」

まちづくり指標	まちづくり指標の考え方	単位	基準値	目標値
認定農業者の人数	農業経営に意欲ある認定農業者について、市内の農業就業人口の約2割程度に増加させることを目標とした。	人	59 令和3年度	70 令和8(2026)年度
多様な農業体験の場※の 新規開設数	農業体験の場の開設に向けて計画的に取り組むことで、2年に1箇所程度新規開設する目標とした。 ※多様な農業体験の場…農業体験ファーム、市民農園、ふれあい体験農園、学童農園	園	1 令和3年度	3(4箇年累計) 令和5(2023)年度 ～令和8(2026)年度
貸借円滑化法の活用件数	高齢化や担い手不足への対策として有効とされる、都市農地の貸借の円滑化に関する法律について、1年に6件程度活用することを目標とした。	件	9 令和3年度	25(4箇年累計) 令和5(2023)年度 ～令和8(2026)年度

2 令和4年度の振り返り及び後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の取組状況 — 評価（CHECK）

◆ 施策の成果向上に向けて、令和4年度及び後期基本計画（令和元年度～令和4年度）に実施した取組に対する評価

総合評価 (令和4年度)	A	<p>S：「実施した取組において顕著な取組成果が得られた。」</p> <p>A：「実施した取組において予定した取組成果が得られた。」</p> <p>B：「実施した取組において一定程度の取組成果が得られた。」</p> <p>C：「実施した取組においてあまり成果が得られなかった。」</p> <p>D：「実施した取組において成果が得られなかった。」</p>
総合評価 理由	<p>令和4年度における施策の成果についての総括（総合評価の理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な農業体験の場の創出として、市民農園及び学童農園を新規開設した。 ・ 市補助事業や都補助事業等を活用し、農業経営の支援を図った。 ・ 海外情勢の影響による農業用肥料や原油等の価格高騰に対し、市内農業者が販売する市内農産物の生産コストへの負担軽減を図るため、農業用肥料の支給や原油購入費用の一部助成を行った。 ・ 地場産の採れたて野菜や花の直売や、フード・カフェを楽しむことができるマルシェ ドゥ 調布の開催を通じ、市民が集い憩える場の創出を図った。 ・ 調布市農業まつりの開催を通じ、市民と農業者の交流、農業者の生産意欲及び技術力の向上を図った。 	
総括評価 (令和元年度か ら令和4年度)	A	<p>S：「計画期間中に実施した取組において顕著な取組成果が得られた。」</p> <p>A：「計画期間中に実施した取組において予定した取組成果が得られた。」</p> <p>B：「計画期間中に実施した取組において一定程度の取組成果が得られた。」</p> <p>C：「計画期間中に実施した取組においてあまり取組成果が得られなかった。」</p> <p>D：「計画期間中に実施した取組において成果が得られなかった。」</p>
総括評価 理由	<p>後期基本計画（令和元年度～令和4年度）における施策の成果についての総括（総括評価の理由）／ 今後に向けた課題・懸案事項</p> <p>（総括）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な農業体験の場の創出として、市民農園・学童農園及び農業体験ファームを新規開設した。 ・ 市補助事業や都補助事業等を活用し、農業経営の支援を図った。 ・ 環境保全型農業の推進として、希望する市内農家に対し有機質肥料を配付した。 ・ 海外情勢の影響による農業用肥料や原油等の価格高騰に対し、市内農業者が販売する市内農産物の生産コストへの負担軽減を図るため、農業用肥料の支給や原油購入費用の一部助成を行った。 ・ 従来の紙媒体の農産物直売所マップの発行に加え、マップに付記したQRコードをスマートフォンで読み込むことで、直売所までのルート案内する機能を備えることにより、市内直売所の利用促進に向けた情報発信を図った。 ・ 地場産の採れたて野菜や花の直売や、フード・カフェを楽しむことができるマルシェ ドゥ 調布の開催を通じ、市民が集い憩える場の創出を図った。 ・ 調布市農業まつりの開催を通じ、市民と農業者の交流、農業者の生産意欲及び技術力の向上を図った。 ・ JAマインズと連携し、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」の活用を促進することで、高齢化に伴う担い手不足等、所有者による耕作が難しくなった生産緑地について、市内農家への貸借につなげ、都市農地の保全・活用を図った。 	

3 中長期的な施策の方向（2030年代を見据えた方向） — (ACTION)

◆施策を取り巻く状況（国、東京都・近隣自治体の動向など）を踏まえた取組の方向

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
全国的な潮流・傾向等	<p>①平成27年4月に都市農業振興基本法が施行され、都市農業の振興に対する基本理念が定められた。同法に基づき、平成28年5月に都市農業振興基本計画が閣議決定され、都市農地を「都市にあるべきもの」と位置付けるなど、都市農業の振興と農地保全に関する国の基本的な考え方が示された。</p> <p>②平成30年9月に都市農地貸借円滑化法が施行され、農地の貸借がしやすくなった。</p>	<p>①都市農業振興基本法では、地方においても都市農業の振興に関する計画を定めるよう努めることと規定されていることから、令和2年度から令和11年度までを計画期間とした「調布市農業振興計画」を策定した。</p> <p>②市内では、都市農地貸借円滑化法を活用した、農家同士の農地の貸し借りや、「シェア畑仙川」「農業体験ファーム（飛田給地区）」など、農地の保全・活用が図られる例が増えている。</p> <p>今後も、JAマイنزと連携し、この制度の活用を促進することで、農地保全・活用に取り組んでいく。</p>
東京都や近隣自治体の動向等	<p>③都では、令和4年11月の東京都農林・漁業振興対策審議会の答申「都民生活に貢献する持続可能な東京農業の新たな展開」を踏まえて、令和5年3月に新たな「東京農業振興プラン」を策定した。</p>	<p>③国、東京都の方向性を踏まえて、令和2年度からスタートした「調布市農業振興計画」を着実に推進していく。</p> <p>また、都市農地を有する近隣自治体と連携して国や都に対して、更なる都市農地保全に必要な制度改正等について要望していく。</p>
その他		

◆前期基本計画期間（令和5年度～令和8年度）における中長期的な取組の方向

- ・引き続き、市補助事業や都補助事業等を活用し、農業経営を支援していく。
- ・環境保全型農業の推進として、有機質肥料の配付事業を継続する。
- ・多様な農業体験の場の創出として、市内設置場所のバランスを考慮しながら検討していく。
- ・調布市農産物直売所マップの更なる活用などを通じて、調布市産農産物のPRを図る。
- ・引き続き、「マルシェ ドゥ 調布」や「調布市農業まつり」の開催を通じ、地産地消の推進や市民と農家の交流、農家の生産意欲及び技術力向上を図る。
- ・JAマイنزと連携し、「都市農地貸借円滑化法」の活用を促進することで、都市農地の保全・活用を図る。

施策の推進、成果向上の視点を踏まえた具体的な取組

デジタル技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化によりルート案内機能を備えた農産物直売所マップを活用し、農産物直売所の利用促進や、市内農産物のPR、地産地消の取組の促進を図る。
共創のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・市民農園や農業体験ファーム等、市民が農とふれあう機会を創出し、農のある地域づくりを推進する。 ・市内農家等との連携による「マルシェ ドゥ 調布」の開催など、多様な主体と連携し、市内農産物の直売の促進やPRに取り組む。
脱炭素社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素社会実現の観点から、農地がもつグリーンインフラとしての機能（環境保全機能）を活かすため、都市農地の保全に努める。
フェーズフリー	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の防災空間の確保や延焼の防止等、農地の持つ防災機能の発揮のため、都市農地の保全に努める。

施策18 「都市農業の推進」に関連する基本計画事業

前期※	計画コード	60	重点P	—			
	事務事業	農業経営の支援				総合戦略	●
後期※	計画コード	58	重点P	—			
	事務事業	農業経営の支援				総合戦略	●
所管部署 生活文化スポーツ部 農政課 農政係							
事業概要 認定農業者などの農業経営に意欲ある農業者が農業を継続できるよう、農業施設整備や事業への支援を実施し、都市農業の経営力を強化する。							

※前期の欄には、前期基本計画（令和5年度～令和8年度）、後期の欄には後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の内容を表記しています。

【PLAN▶DO▶CHECK】

活動内容（事業費ベース）	計画目標	令和4年度			
		（計画）	（当初予算）	（決算・実績）	
活動内容（事業費ベース）	○「都市農業活性化支援事業」を活用した営農農団の支援 ○「都市農業育成対策事業」を活用した意欲ある農業者等の支援	○農業振興計画の推進 ○「都市農業育成対策事業」を活用した農業者への支援 ○「都市農業活性化支援事業」を活用した営農農団への支援 ○有機栽培の促進 ○観光農園事業の支援 ○農業生産者団体への支援 ○農業用水路しゅんせつ事業の支援 ○「都市農地保全支援プロジェクト」を活用した防災機能の強化、地域、環境に配慮した基盤整備支援（再掲） ○特定生産緑地の指定に向けた取組（再掲）	○農業振興計画の推進 ○「都市農業育成対策事業」を活用した農業者への支援（拡充） ○有機栽培の推進 ○観光農園事業の支援 ○農業生産者団体への支援 ○農業用水路しゅんせつ事業の支援 ○「都市農地保全支援プロジェクト」を活用した防災機能の強化、地域、環境に配慮した基盤整備支援（再掲） ○特定生産緑地の指定に向けた取組（再掲）	○農業振興計画の推進 ○「都市農業育成対策事業」を活用した農業者への支援（28人） ○有機栽培の促進 ○観光農園事業の支援（3農園） ○農業生産者団体への育成支援（5団体） ○農業用水路しゅんせつ事業の支援（6組合）（拡充） ○「都市農地保全支援プロジェクト」を活用した防災機能の強化、地域、環境に配慮した基盤整備支援（2人）（再掲） ○特定生産緑地の指定に向けた取組（再掲） ○物価高騰に対する支援	
		事業費（千円）	13,360	14,100	20,761
		債務負担行為等による用地取得費	0	0	0

令和4年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり	<input type="checkbox"/> 計画遅れ	<input type="checkbox"/> 計画前倒し	実績評価	◎
-----------	---	-------------------------------	--------------------------------	------	---

説明 令和2年度からスタートした調布市農業振興計画について、多様な主体と連携を図りながら、円滑な推進を図った。
農業経営の安定と向上を目的として、認定農業者及び農業経営に意欲ある農業者（28人）が行う事業に対して、農業用機械購入費等の支援を実施した。
※経費の2分の1以内で限度額30万円（認定農業者は60万円）を補助
希望する農業者（105人）に対し、有機質肥料の配付を行うことで、有機質栽培を推進した。
海外情勢の影響により、農業用肥料や原油等の価格が高騰していることを鑑み、市内農業者が販売する市内農産物の生産コストへの負担軽減を図るため、農業用肥料の配付や原油等購入費用の一部助成を行った。
地場産の採れたて野菜や花の直売や、フード・カフェを楽しむことができるマルシェ「調布の開催を通じ、市民が集い憩える場の創出を図った。

【ACTION】

今後の方向	<input checked="" type="checkbox"/> 現状継続	<input type="checkbox"/> 有効性改善	<input type="checkbox"/> 効率性改善	<input type="checkbox"/> 財政面改善	<input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善
今後の取組の方向	調布市農業振興計画に掲げた将来像の実現に向けて、計画に位置付けた取組の推進を図っていく。 今後も国・東京都及び市独自の補助制度などを活用しながら、認定農業者及び農業経営に意欲ある農業者に対する支援を引き続き行っていく。 都市農業振興基本法の基本的な方針を踏まえ、都市農業の振興と都市農地の保全を図るため、本事業を通じて農業経営を支援していく。 補助制度の更なる周知を図ることで、都市農業の振興につなげていく。				

施策18「都市農業の推進」に関連する基本計画事業

前期※	計画コード	61	重点P	—		
	事務事業	多様な農業体験の場づくり			総合戦略	●
後期※	計画コード	59	重点P	—		
	事務事業	多様な農業体験の場づくり			総合戦略	●
所管部署 生活文化スポーツ部 農政課 農政係						
事業概要 地産地消を推進するとともに、市民が農家の指導を受けながら農作業を楽しむことができる体験ファームの拡充や、農作業を通じて自然に親しみながら生産の喜びを味わうことができる市民農園の確保など、市民が農業とふれあえる機会づくりを推進することで、市民の農業・農地への理解促進を図る。						

※前期の欄には、前期基本計画（令和5年度～令和8年度）、後期の欄には後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の内容を表記しています。

【PLAN▶DO▶CHECK】

活動内容（事業費ベース）	計画目標	令和4年度					
		（計画）	（当初予算）	（決算・実績）			
○農業体験ファームの運営補助 ○新規農業体験ファームの開設に向けた農地の確保 ○農業体験ファームの施設整備に対する補助	○市民農園の推進 ○農業体験ファームの推進 ○ふれあい体験農園の推進 ○学童農園の推進	○市民農園の推進（拡充） ○農業体験ファームの推進 ○ふれあい体験農園の推進 ○学童農園の推進（拡充）	○市民農園の推進 ・市民農園の管理・運営（14園）（拡充） ○農業体験ファームの推進 ・農業体験ファームの運営補助（240区画） ○ふれあい体験農園の推進 ○学童農園の推進（4校）（拡充）				
				事業費（千円）	13,594	14,298	15,274
				債務負担行為等による用地取得費	0	0	0

令和4年度取組実績	<input type="checkbox"/> 計画どおり	<input type="checkbox"/> 計画遅れ	<input checked="" type="checkbox"/> 計画前倒し	実績評価	◎
-----------	--------------------------------	-------------------------------	---	------	---

説明	農業体験ファームは、6農園（国領元気村・国領5丁目の畑・あい菜飛田の里・深大寺ときめきの郷・入間ふれあい農園・chofuみらいfarm）において、多くの市民が農作業を行うことで、市民の農業に対する理解を深めることができたほか、農業体験を通して、利用者間の活発な交流が図られた。市民農園の管理・運営、市民が農業とふれあえる機会づくりのためのふれあい体験農園の実施、食育を推進するための学童農園事業の実施により、市民の農業・農地への理解促進を図ることができた。市民農園について、上石原・下石原第2・若葉町市民農園を新規開設した。学童農園について、第三小学校にて新規開設した。
----	---

【ACTION】

今後の方向	<input checked="" type="checkbox"/> 現状継続 <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善
-------	---

今後の取組の方向	農業体験に対する市民ニーズが高いことなども踏まえ、市民の農業・農地への理解促進を図る観点からも、引き続き、新たな農園を確保していくため、農家に対し農業体験ファーム事業の制度等を周知し、協力を得ていく。市民の農業・農地に対する理解促進、食育の推進を図るために、ふれあい体験農園、学童農園事業も継続して実施していく。
----------	--

施策18「都市農業の推進」に関連する基本計画事業

前期※	計画コード	62	重点P	⑤	人と自然がおりなすうるおいあるまち	総合戦略	●
	事務事業	都市農地の保全・活用				総合戦略	●
後期※	計画コード	60	重点P	⑤	人と自然が共生するうるおいのあるまち	総合戦略	●
	事務事業	都市農地の保全・活用				総合戦略	●
所管部署 生活文化スポーツ部 農政課							
事業概要 農地が持つ防災や環境保全などの多面的機能をより一層発揮させるとともに、地域住民に配慮した基盤整備により、貴重な都市農地の保全を図る。							

※前期の欄には、前期基本計画（令和5年度～令和8年度）、後期の欄には後期基本計画（令和元年度～令和4年度）の内容を表記しています。

【PLAN▶DO▶CHECK】

活動内容（事業費ベース）	計画目標	令和4年度						
		（計画）	（当初予算）	（決算・実績）				
○都市農地の保全 ○里山の保全と活用	○「都市農地保全支援プロジェクト」を活用した防災機能の強化、地域、環境に配慮した基盤整備支援 ○特定生産緑地の指定に向けた取組 ○農業振興計画の推進（再掲） ○市民農園の推進（再掲） ○農業体験ファームの推進（再掲） ○ふれあい体験農園の推進（再掲） ○学童農園の推進（再掲）	○「都市農地保全支援プロジェクト」を活用した防災機能の強化、地域、環境に配慮した基盤整備支援 ○特定生産緑地の指定に向けた取組 ○農業振興計画の推進（再掲） ○市民農園の推進（拡充）（再掲） ○農業体験ファームの推進（再掲） ○ふれあい体験農園の推進（再掲） ○学童農園の推進（拡充）（再掲）	○「都市農地保全支援プロジェクト」を活用した防災機能の強化、地域、環境に配慮した基盤整備支援（2人） ○特定生産緑地の指定に向けた取組 ○農業振興計画の推進（再掲） ○市民農園の推進（再掲） ○農業体験ファームの推進（再掲） ○ふれあい体験農園の推進（再掲） ○学童農園の推進（再掲）					
					事業費（千円）	9,950	15,523	2,865
					債務負担行為等による用地取得費	0	0	0

令和4年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり	<input type="checkbox"/> 計画遅れ	<input type="checkbox"/> 計画前倒し	実績評価	◎
-----------	---	-------------------------------	--------------------------------	------	---

説明	都市農地保全支援プロジェクトを活用し、農業者2人に対して、災害時協力井戸となる農業用井戸や防菜ネットの設置に関する補助を実施した。これにより、農地の持つ多面的機能の向上につながった。 ※都費により経費の4分の3、市費により1人当たり5万円を補助。 JAマインズと連携し、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」の活用を促進することにより、都市農地の保全・活用に取り組んだ（4件）。
----	---

【ACTION】

今後の方向	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善
-------	---

今後の取組の方向	今後も都市農地保全支援プロジェクトの後継事業である、未来に残す東京の農地プロジェクトを活用し、防災や環境保全などの都市農地が持つ多面的機能をより一層発揮させるための施設整備など、農地保全に意欲的に取り組む農業者及び農業団体が行う農地保全の取組に対して、ソフト・ハード両面に対する支援を継続していく。 JAマインズと連携し、生産緑地地区制度及び特定生産緑地地区制度の活用促進に向けた取組を進めるとともに、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」の更なる周知を図るほか、農業経営の支援や市民農園・農業体験ファーム等に取り組むことにより、効果的な都市農地の保全・活用につなげていく。
----------	--